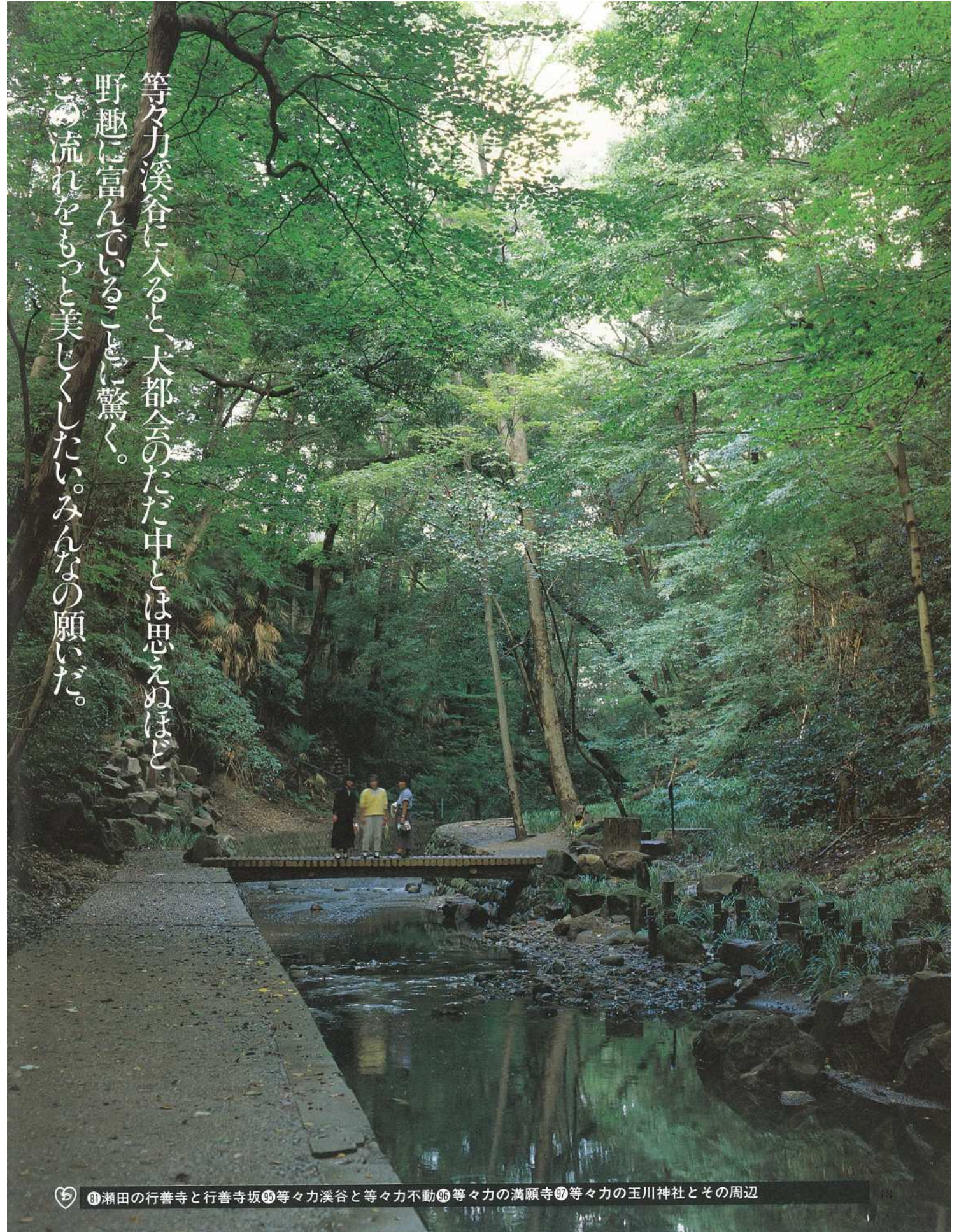


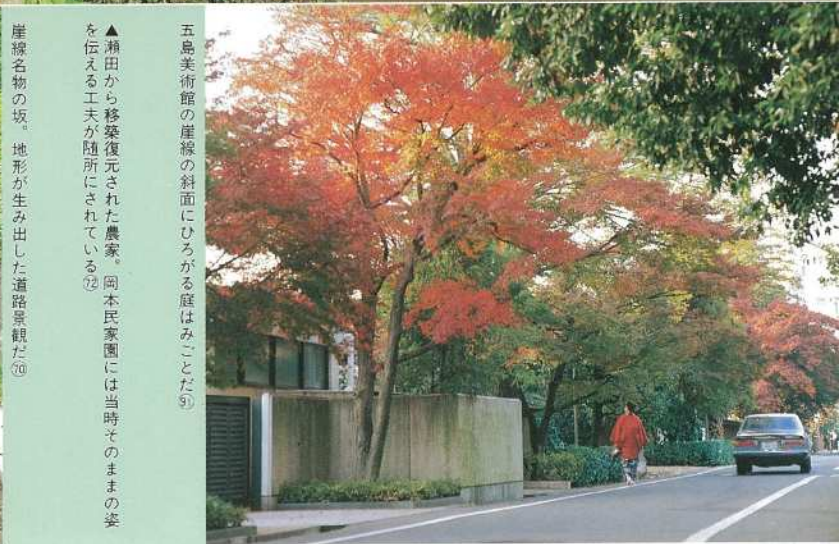


静嘉堂文庫は三菱財閥の岩崎弥之助、小弥太父子によって設立された。弥之助の墓には明治の気骨がしのばれる<sup>73</sup>

▼文庫の建物は、大正時代の西洋建築。深い緑とよくマッチしている<sup>75</sup>



等々力溪谷に入ると、大都会のただ中とは思えぬほど  
野趣に富んでいることに驚く。  
この流れをもっと美しくしたい。みんなの願いだ。



▲瀬田から移築復元された農家。岡本民家園には当時そのままの姿を伝える工夫が随所にされている。

蔵相高橋是清の別邸はいま幼稚園になっている。美しい景観をもつ国分寺崖線には、戦前多くの邸宅・別荘が造られた。



芦沢明子・あしざわあきこ  
大学生(中央大学4年生)



沢田重隆・さわだしげたか  
画家



進士五十八・しんじいそや  
東京農業大学助教授



福田純・ふくだじゆん  
映画監督



田中勇輔・たなかゆうすけ  
世田谷区役所企画部  
都市デザイン室室長

# 世田谷の風景を語る

## いちばん好きな風景といえば、 やっぱり家の近所

司会 「せたがや百景」は、かなりの盛り上りのなかで区民が選んだわけです。しかし、世田谷は少々広くて、区民といえども、百景を知っている人間はかなり少ないんじゃないかといえます。そこで、これをきっかけに、ひとつ世田谷のまちの探検といいますが、身の回りの環境を考えてもらいたいです。そのことがまちづくり、あるいはふるさと世田谷づくりを考えていくきっかけになるのではないかと。というわけで、その手助けになるようなガイドブックづくりをすすめております。

そのガイドブックの一コマとして、世田谷のまちに寄せるみなさんの考え、あるいはいままでの生活体験の中で思いを寄せている風景、あるいは将来どうあつて欲しいかということをお話ししたいと思います。まず、自己紹介的に世田谷の町とのかわりを語っていただきたいと思います。では、芦沢さんから。

芦沢 私は二十三歳になりますが、生まれてからずっと世田谷区の深沢です。駒沢公園と呑川の、いまは遊歩道になってしまったんですけど、そのすぐそばに住んでいます。

「せたがや百景」について実際に幾つ知っているかというと、ほんのわずかな自分の家の周りぐらいしかわからないうんです。私たちがぐらいい世代がいちばん知らないんじゃないかと思えます。毎日学校や会社と家との往復という生活なので、明るいうちは世田谷区内にいない人のほうが多いですから。それに、休みのときはもう世田谷を飛び越してよそへ行っちゃうという人たちが多いいんです。

私は、地域で子ども会活動にたずさわっていて、時には多摩川へ子どもと手をつないでハイキングに行ったりしていますので、まあそんな中でも見て

いるほうではないかと思えます。

私のいちばん好きな風景といえば、家の近くの今は呑川遊歩道になってしまいましたが、昔は川だったんです。幼稚園に行っていたころ、もう十五、六年前ですけど、春になると呑川の川の流れと桜がとってもきれいな風景だったなあ、というのが印象に残っています。

毎年春になると家の近くで桜が咲きますから、桜というのはわざわざ花見に出かけなくても近所にあるものだと思います。大学に入ってから友達から「花見に行こうよ」と誘われて、「花見って、家の近所ですものじゃないの」といったら笑われました(笑)。このころは、春になると家の近所にも大勢よそからくるんですね。ごさを敷いて桜の下で宴会をやっているという情景も見られるようになって、桜のあるところに生まれてよかったと思っています。

司会 進士先生は区内にお住まいじゃないんですけど、大学への道筋の風

座談会

景なんかを含めて、世田谷とかかわってきた経緯の中で気のついたことはありませんか。

### 世田谷は東京のはずれでしたね

進士 私は深川の木場で育ちましたが、造園をやりたくて、東京農大にまいりました。造園というのは皆さんあんまり馴染がないでしょうが、ランドスケープ（風景・景觀）の問題をやるわけです。当時、農大のある世田谷のあたりは、深川から見るとはずれのはずれで、大学の入学試験で来たときに、駅を出ると畑や水田がありましたよ。バスを降りるとずっと樹林でしょう。えらい淋しいところに来たと思ったですよ。だから、東京にもこんなところがあるかというのが、私の世田谷についての第一印象です。

不思議なもので、人間の考え方や見方はどんどん変わりますね。町の風景を見る目も変わります。たぶん芦沢さんがここに生まれてずっと育っているから、友達にいわれてはじめてそんないいところかと思われたのでしょけれど、足元の風景を見るのには、全然違うところに行つて違う体験をするのが一番いいと思うんですね。

### 下町、農村、住宅地、これが世田谷区顔の三つの顔

私は深川の前には福井に疎開して、まして、福井から深川の木場へ行って、それから今は小田急線の南林間に住んでいるんです。それぞれの環境が全然よく感じられますし、一応小さな林とか、大きな屋敷の木とか、非常に緑が多いわけです。それが季節によって花が咲いたり実がなったり、葉の色が変わったりしてやっぱりどんどん変わっていくんで、けっこう電車から見ると風景だけでもほかの地域に比べると、非常に自然が残っているんじゃないかなという感じがするんですね。

### 下北沢にはふだん着で行けるね

それと、たとえば中央沿線などと比べてみると、中央沿線というのは沿線の各駅を基点として非常に大きな商店街ができてしまつて、そのうえ大資本がよそから入ってきて街を強引に一方的に作ってしまったという感じが強いんですけども、世田谷の中の商店街というのは意外と大きな資本は入っていないんじゃないでしょうか。たとえば、小田急線の代表的な下北沢の町など、あんまり大きな資本は入ってきていないですね。全部が横丁と

## 百景選定の趣旨と経過

「せたがや百景」は、昭和59年、区民の皆さんの手で選ばれました。候補の推薦や投票に皆さん大いに盛り上がり参加してくださいました。おかげで下の表のように、かなりバラエティーに富んだ風景で百景が構成され、世田谷はこれだけ豊かな「町の顔」を持っているということを知ることができました。

### いまなぜ百景か

ところで、区役所が百景を選ぶなどという酔狂なことをしてどうするのか、その前にもっとやることがいっぱいあるのではないかと思います。したがってここで、選定の経過をお伝えする前に、百景選定の発想とその趣旨について少し述べておくことにします。

いま世田谷区は、基本計画に基づいて、その土地の自然・歴史・文化・風土、人々の生活様式や環境に対する見方などを踏まえて、

せたがや百景の類型区分		百景	候補
自然のある風景		14	26
農地・田園	1	8	
水・流れ	7	12	
樹林	6	6	
歴史が見える風景		28	63
寺社・仏閣・旧蹟等	25	56	
旧街道	3	7	
生活・コミュニティが見える風景		12	20
街の活気と生活	4	10	
催し・伝統行事	8	10	
魅力ある住宅地・建物の風景		13	33
住宅地	6	15	
戸建て住宅地	5	10	
集合住宅地	1	5	
建築	7	18	
魅力ある庭・広場・公園の風景		17	25
庭・花木・広場	8	14	
公園	9	11	
魅力ある道の風景(含交通機関)		13	27
街路樹・並木道	6	10	
緑道・路地	4	6	
坂道	1	7	
現代交通風景	2	4	
眺望景観		3	6
合計	100	200	

だから私は、世田谷が住民にとって便利になっていくことはいいけれども、あまり大きな資本がどんどん入ってきて壊さないようにしてもらいたいと思いますね。なるべく自然発生的に町がにぎやかになっていって、商店が増えていって、住民もそれによって利便を感じるという関係、親密な関係で町が大きくなっていくことについては、あまり抵抗はないんです。何か暴力的にワツと入ってくるというのは、僕はとっても嫌いですよ。

福田先生お願いします。

「感じの街でしょう。職住一体みたいになっていて、とてもファミリーといつか親しみがあつて、ほんとうにふだん着で行けるといところが非常に面白いと思います。」

福田 私が働いておりますスタジオ、昔は東宝撮影所とっていましたが、その裏が御料林だったんですよ。そこには時代劇が撮れたぐらいの自然があった。

### 風景というのはメンタルなものです

私が助監督で入ったところは、戦後ですけれども、助監督がいじめられた時期なんです。とくに私はカチンコたたき、まあフォースといっていますけど、四番目の要するに使い走りですね。昼休みはできるだけみんながら離れていたわけですよ。居れば、監督やカメラマンが「お茶だ」「何だ」といって休憩できない。だから逃げるわけです。社員食堂で飯を食ったら御料林へ行つて



下町の顔⑤



農村だったころの面影④



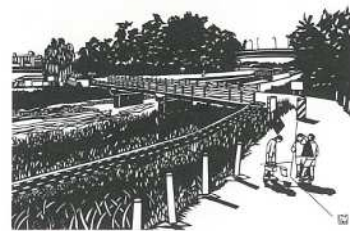
成城、住宅街のたたずまいはそこに住む人々の心のあらわれでもある③



## 百景選定の趣旨と経過

区役所の縦割りの事業・施策をできるだけ横につなぎ、住民の方がたと一緒にきめ細かなまちづくりをすすめるようとしております（これを「地区まちづくり」と呼んでいます）。いかえますと、皆さんが「好ましい」と感じる風景の中で生活し、活動してゆくことを願って、そのような風景を守り育てる、あるいはつくってゆくことに心を砕いているのです。もちろん「まちづくり」のみにない手は、区役所や東京都、政府といった公共部門だけではなく、いろいろな事業を行なう企業、それに、「住み手」「生活者」である皆さん自身もそうです。それぞれが協力し合わないと、好ましい風景を守り育てることもつくってゆくこともむずかしいことはいまでもありません。では、みんなの協力で大切にすべき風景とはいったいどういう風景なのか、皆さんの日常生活空間つまり足元の町から掘り起こしてみよう。そして、皆さんの共通の感性と理解のもとで「百景」として選び、今後の世田谷のまちづくりを考える原点にすえよう。これが百景選定の発想と趣旨でした。

というわけで仕掛人は区役所でしたが、主役はあくまでも区民の皆さん、候補とした風景をあげてもらふことと、その候補についての投票を皆さんの手でやっていただくことにはいたしました。選定委員会(26ページ参照)を設け、選定基準を定めたり、投票していただく「百景候補」の選定、最後に投票結果をもとに「せたがや百景」として100の風景を選ぶという仕事にあたってもらいましたが、それは皆さんのお手伝い役にすぎませんでした。



兵庫島切 後藤伸行

### 発見 わがまちのいい風景

こうして、4月半ばから5月上旬にかけて「発見 わがまちのいい風景」をキャッチフレーズに、皆さんから「好ましい風景」を推薦していただきました。「区のお知らせ」での呼びかけだけでは心もとなく、町会・自治会の回覧を通じてもお願いしました。その結果、延べ2700景、重複を整理して400景近いたく

世田谷区では、これらを一緒にしてまちづくりの発想につなげようとしているわけです。その場合、自然風景本位ではなく、もっと人間の生活、市民の生活に密着した「生活風景」を選んではいけないかということが一つです。それからもう一つ、心の問題もできるだけ入れたい。結局、身近な足元の風景を見つめて、「わが町のいい風景」を発見する。こういうスローガンを掲げまして、とにかく従来から来た風景観をこの辺で切り換えようというわけです。

ここで、「いい風景」ということの解釈ですが、普通は「いい風景」すなわち「美しい風景」なんです。絵のように美しいとか。私は、美しさは表面だけではないと思っています。人工的に装っただけの美しさだけの間

景観はとにかくまずい。つまり、自分の足元の風景がどんなに悪いほうに変わっても、住民が立ち上がらないわけです。現代は、生活に密着させた風景観を作らないとだめだ。ちょっと大げさな話ですけど、私の百景論というのは、その辺がスタートなんです。世田谷はいまほとんど変わっているんです。懐かしさだけではだめです。マンションとかワンルームマンションの話は御存じでしょう。それから崖線の緑だつてほとんど斜面建築ができて壊れていくし、多摩川だつていろいろ変わるでしょうし、どんどん緑豊かな世田谷なんてのはもうなくなっていくわけ



## 使うことと書くことと「それがいい風景」

です。

ところがそれは全部なくなって、学校になつたでしょう。そういうのがいたるところにあると思います。私自身はずっと勤めが変わらず今日まで来てるものですが、世田谷の移り変わりは全部わかつていて、世田谷の、よその都市についてはロケーションで行くだけでしょ。ロケーションじゃわからないですよ。昔から市場が好きなので、知らないところへ行くと、まず市場をずうっと歩くわけ

## まず、風景観を「景観」と「風景」に分けてみる

進士 初めに前書き的に申しますと、昔からある日本三景とか、近江八景、金沢八景、江戸時代の本朝十二景、こういういい方はもともとは中国が起原なんです。中国の瀟湘八景や西湖十景などをお手本としているわけです。最近では、新東京百景とか神奈川県景勝五十選といった例があります。日本人の共通した風景観は、昔からこういふふうには「選ばれた景勝地」のイメージがありまして、それはどうしても

今、福田さんが景観と風景を分けていらつしやいました。景観はシーンだというお気持ちですね。シーンと風景、この風景をわれわれはランドスケープといつておりますけど、心の風景、心象風景を含んでいるんじゃないでしょうか。昔から景観論という議論があつて景観と風景をまず分けちゃうんですね。景観というのは科学的に把握できるものだというふうな方で、どちらかというと視覚的にとらえられるもの、一方、風景は、それをもちろんベースにしているんですけど、そこに歴史とか文化を感じたり、人間の生業とか、暮らしぶりとか、みんな重なって見えるものとしてとらえております。私がいちばん大事にしたいと思つて

進士 初めに前書き的に申しますと、昔からある日本三景とか、近江八景、金沢八景、江戸時代の本朝十二景、こういういい方はもともとは中国が起原なんです。中国の瀟湘八景や西湖十景などをお手本としているわけです。最近では、新東京百景とか神奈川県景勝五十選といった例があります。日本人の共通した風景観は、昔からこういふふうには「選ばれた景勝地」のイメージがありまして、それはどうしても

今、福田さんが景観と風景を分けていらつしやいました。景観はシーンだというお気持ちですね。シーンと風景、この風景をわれわれはランドスケープといつておりますけど、心の風景、心象風景を含んでいるんじゃないでしょうか。昔から景観論という議論があつて景観と風景をまず分けちゃうんですね。景観というのは科学的に把握できるものだというふうな方で、どちらかというと視覚的にとらえられるもの、一方、風景は、それをもちろんベースにしているんですけど、そこに歴史とか文化を感じたり、人間の生業とか、暮らしぶりとか、みんな重なって見えるものとしてとらえております。私がいちばん大事にしたいと思つて



下北沢北口の市場。戦後の生活史が詰まっている感じがする

す。そうするとその土地の生活、風土までだいたいわかるんですよ。今ふつと思つていらっしゃるんですけど、世田谷にはそういうものを感じさせる市場が少ないですね。沢田 下北沢にちょっとあるだけ。福田 ちよつとあるだけでしょ。それから下ノ谷の朝市とか……。何かそういう匂いを感じさせる市場が世田谷には少ないし、そういう場所を「百景」の中でどれだけ求められるかなあつて。やはり「せたがや百景」というのは、そういうかたちでメンタルで何か感じるところがあつたらいいと思います。だいたい景観と風景を分けるのは大変難しいと思うけど、「景観」というのは無機質なもので「風景」というのは大変にメンタルなものだと僕自身は申しているんです。

お寺とか神社の名所田蹟が中心になつて、もちろん名所田蹟は単にお寺と神社の建物だけでなくて、背景は緑だし海が控えていたり、非常に景観のいいところになっていきます。だからどうしてもいわば自然風景、自然景観が選ばれがちだったんです。今、福田さんが景観と風景を分けていらつしやいました。景観はシーンだというお気持ちですね。シーンと風景、この風景をわれわれはランドスケープといつておりますけど、心の風景、心象風景を含んでいるんじゃないでしょうか。昔から景観論という議論があつて景観と風景をまず分けちゃうんですね。景観というのは科学的に把握できるものだというふうな方で、どちらかというと視覚的にとらえられるもの、一方、風景は、それをもちろんベースにしているんですけど、そこに歴史とか文化を感じたり、人間の生業とか、暮らしぶりとか、みんな重なって見えるものとしてとらえております。私がいちばん大事にしたいと思つて

